



成田市不動ヶ岡櫛田I遺跡

不動ヶ岡櫛田I遺跡は、^{ねこながわ}根木名川西岸の標高約36mの台地上に位置しています。

当遺跡は縄文時代から中近世にかけての複合遺跡であり、今回の調査では縄文時代の土坑2基・^{おとあな}陥し穴3基・小竪穴3基、古墳時代の竪穴住居跡9軒・土坑75基、奈良・平安時代の土坑4基・土坑墓1基・溝2条が検出されました。



写真① 陥し穴

縄文時代の陥し穴(写真①)は、いずれも長楕円形を呈し、深さが1.6m~2mであり、各地で見られる陥し穴の特徴と一致しています。今回検出された3基の陥し穴は、近接した場所にあることから、縄文時代の当遺跡の性格は、狩猟場であったことが推測されます。

古墳時代の竪穴住居はいずれも後期に属するものであり、カマドの天井部分の一部が崩れずに残っているもの(写真②)や、つぶれた状態の甕がまとまって出土しているもの(写真③)もありました。

現在は削平されている調査区の南東側ですが、かつては平坦部が続いていたことから、集落が展開されていたことが考えられ、今回確認された住居は集落北西側の縁辺部であることが示唆されます。

また、周辺に所在する富里市^{こやま}古山遺跡からは当遺跡と同時期の集落、および古墳時代前期の集落が確認されているほか、古墳時代中期の富里市^{からすやま}鳥山2号墳、終末期古墳に属する富里市^{まつのきだい}松ノ木台2号墳を含む古墳群が確認されています。このことから、当遺跡を含め、その周辺が、古墳時代を通して利用されていたことが判明しました。



写真② 8号住居カマド



写真③ 9号住居出土甕

BOOK
FIELD



成田市不動ヶ岡太田遺跡(第1・2次)

不動ヶ岡太田遺跡はJR成田駅より南に約700m、^{ねこながわ}根本名川西岸の標高約34mの台地上に立地しており、成田市不動ヶ岡に所在します。過去に調査例はなく、今回が初めての調査となりました。調査の結果、縄文時代の^{おとあな}陥し穴2基、奈良・平安時代の^{おとあな}竪穴住居跡17軒・土坑55基・粘土採掘坑1基、近世の塚4基が検出されました。

竪穴住居跡からの遺物の出土量は全体的に少ないですが、カマドやその周辺から、逆さの状態の完形の甕(写真①)や重なった2枚の坏(写真②)なども見つっています。発掘調査では時折このような遺物と出会うことがあり、逆さの状態はカマドの機能停止をあらわし、役目を果たし終えたカマドで何らかの儀礼行為を行った痕跡と考えられています。

写真③は住居跡から出土した^{ほうすいしゃ}紡錘車(糸を紡ぐための道具)と考えられるもので、直径約6.6cm、重さ57.6gです。一般的な紡錘車の直径は4cm程度であることから、今回のものは比較的大型だと言えます。何を記しているかは不明ですが^{ぼくしょ}僅かに墨書が確認でき、墨書のある高台付きの坏の底部を転用して作られたものだと分かります。大型の紡錘車は、^{せんい}太い繊維から^{ぎよもう}釣糸や漁網用の糸などを紡ぐために用いられました。

明治時代には当遺跡の位置する台地の下を根本名川の支流が流れていました。現在でも当遺跡の北東で川は流れていて、調査区の台地の下には沼が存在します。漁の道具の製作のためにも使われる大型紡錘車の出土は集落が営まれた当時、集落が水辺に近い環境であった事を示しているのかもしれませんが。

また当遺跡の北西の^{いごだい}囲護台遺跡群では、土器片の転用で写真③と大きさがほぼ同じものが出土していて、形の違いから「紡錘車」ではなく「円板」として報告されています。穴の開いた円板が何のための道具であるかは分かりませんが、カマドの中から見ついていることから先述したカマドでの儀礼行為に用いられたのかもしれませんが。写真③もカマド付近で見ついているので、もしかすると紡錘車ではなく囲護台遺跡群のものと同じ円板の可能性もあり、今後検討していく必要があります。



写真③ ○内墨書



写真① カマド内 逆さの甕



写真② 重なった坏

前述の^{いごだい}囲護台遺跡群は150点を超える墨書土器が出土している大規模集落跡です。その他にも印旛沼東岸には、古墳時代以降の主要な遺跡が数多く確認されています。台地上の狭い平坦部に展開した集落跡である当遺跡とその周辺の大規模集落跡との関係について今後の整理作業で解明されることが期待されます。



《NEWS》

■第22回遺跡発表会を開催しました

令和7年1月25日(土)に佐倉ハーモニーホールにおいて開催いたしました。日本大学の浜田晋介教授をお招きし「房総の



弥生集落を考える」という演題で講演を行っていただきました。なお、今回の発表は令和7年4月中にセンター公式YouTubeにて配信します。令和7年度もこのような行事を開催する予定です。

■(公財)印旛郡市文化財センター 40周年記念企画展

「印旛の珍品展～発掘されたあれやこれ～」

令和6年10月2日(水)～令和7年9月19日(金)の期間、当センター考古資料展示室にて企画展を開催しております。センター設立40周年を記念し、造形に特徴のあるもの、歴史的価値が高い資料を集めて展示を行います。この機会にぜひご覧ください。

*考古資料展示室開室日時

平日9時～17時(入室は16時30分まで)

(休室日:土・日・祝祭日・年末年始)

《令和6年度 調査を終えた遺跡》 (3月現在)

- 《成田市》堀之内宮ノ台遺跡(第2次)(奈良・平安、中・近世)
不動ヶ岡樋田I遺跡(縄文、古墳、奈良・平安)
不動ヶ岡太田遺跡(第1・2次)(縄文、奈良・平安、近世)
不動ヶ岡中弘遺跡(縄文、奈良・平安)
- 《佐倉市》上座安土遺跡(第2次)(縄文、弥生、古墳、奈良・平安、中・近世)
- 《印西市》西ノ原第1遺跡(旧石器)
西ノ原第3遺跡(縄文、弥生、古墳、奈良・平安)
前戸遺跡(第7地点)(中・近世)

《令和6年度 調査を行っている遺跡》 (3月現在)

- 《成田市》不動ヶ岡太田遺跡(第3次)(縄文、奈良・平安)
- 《山武市》大椎木遺跡(第2次)(旧石器、縄文、古墳、奈良・平安)

《令和6年度 整理作業を終えた遺跡》 (3月現在)

- 《成田市》堀之内宮ノ台遺跡(第2次)(奈良・平安、中・近世)
- 《佐倉市》太田向原遺跡(第8次)(縄文、近世)
上座安土遺跡(第2次)(縄文、弥生、古墳、奈良・平安、中・近世)
- 《印西市》天神台遺跡(第17・18地点)(縄文、弥生、古墳、奈良・平安)
- 《四街道市》古屋城跡(古墳、奈良・平安、中世)
- 《栄町》宮前遺跡(古墳、奈良)

《令和6年度 整理作業を行っている遺跡》 (3月現在)

- 《佐倉市》生谷松山遺跡(第1・3次)(縄文、古墳、奈良・平安、中世)
神楽場遺跡(第14次)(縄文、古墳)
宮本宮後遺跡C地区(第3次)(縄文、弥生、古墳、奈良・平安、近世)
- 《印西市》道作1号墳(古墳)
- 《四街道市》馬場No.1遺跡(縄文、弥生、奈良・平安、中世)
- 《柏市》花戸原遺跡(第14・16～25次)(旧石器、縄文、古墳、奈良・平安、中・近世)
中馬場遺跡(第14次)(縄文、奈良・平安、近世)

※発掘現場、室内作業は見学いただけます。

ご希望に添えない場合もありますので、かならず事前にご連絡ください。

《ご案内》

ホームページとスマートフォン版サイトにおいて当センターの最新情報をお伝えしています。ぜひご活用ください。

PCサイト <http://www.inba.or.jp>

スマホサイト <http://www.inba.or.jp/sp>

